

## ～ 小学校・中学校で学校統合する場合（義務教育学校） ～

統合校 鳴子小学校, 川渡小学校, 鬼首小学校, 鳴子中学校

利用校舎 鳴子中学校

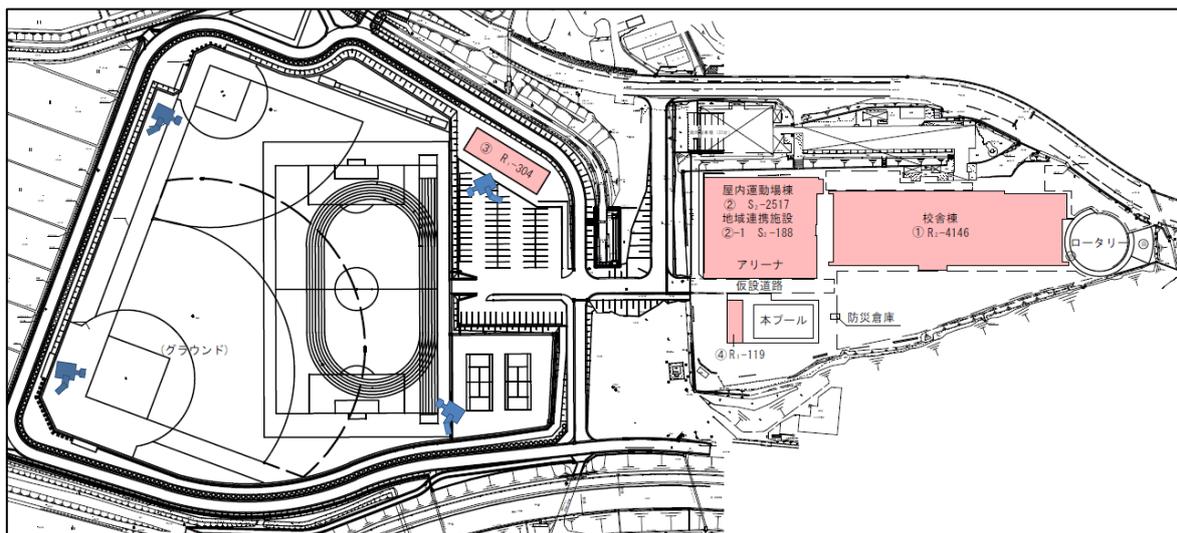
校舎 4,146 m<sup>2</sup> (H18 築) 体育館 2,517 m<sup>2</sup> (H18 築)

### ・児童数・クラス数（予測）

区分 学年 年度	小学生							中学生				小中 合計	特支 小・中	合計
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計	1 年	2 年	3 年	合 計			
令和7年度	7	7	23	14	26	20	97	26	28	29	83	180	—	180
クラス数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3	9	5	14
令和8年度	13	7	7	23	14	26	90	20	26	28	74	164	—	164
クラス数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3	9	5	14
令和9年度	6	13	7	7	23	14	70	26	20	26	72	142	—	142
クラス数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3	9	5	14

※令和8年度から2・3年生は複式学級対象の児童数であるが、学校統合の特例加配を想定し、複式学級を適用しない。（特例は統合後5年間まで）

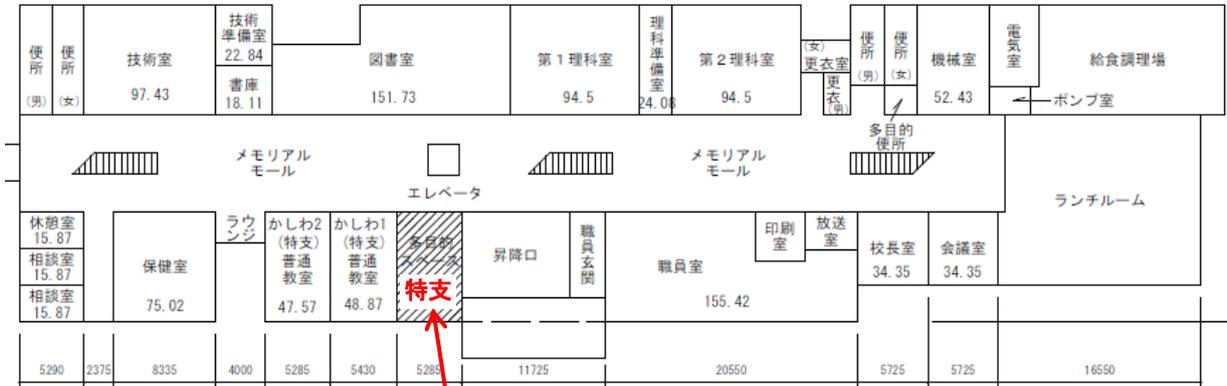
### ・施設配置図・施設面積等



※監視カメラのイラストはイメージとなります。

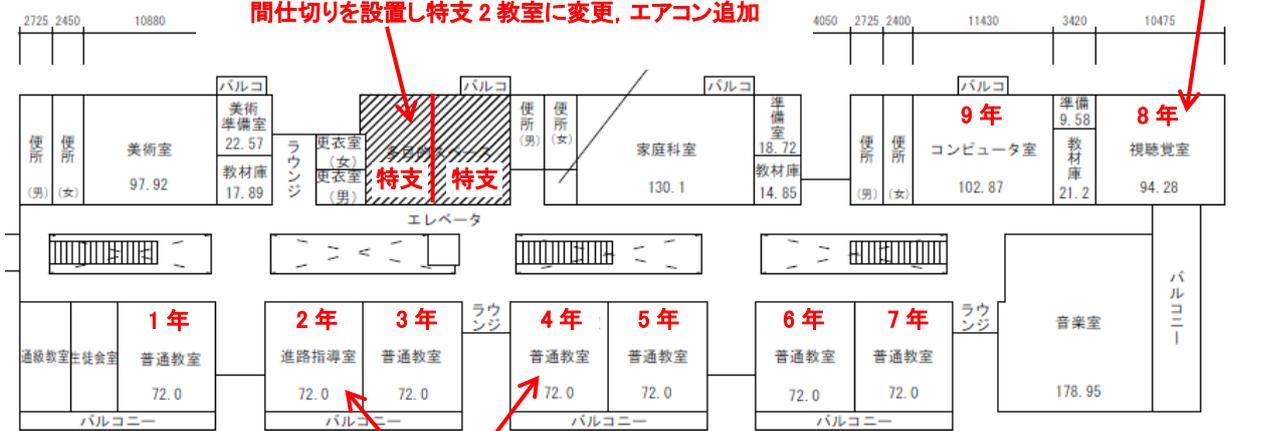
・教室配置図

1階



特支教室に変更, エアコン追加

2階



間仕切りを設置し特支2教室に変更, エアコン追加

エアコン追加

エアコン追加

※朱書きは変更案

工事費概算

エアコン設置工事：2000万円 教室改修工事：4000万円 設計：500万円 監理：300万円

遊具設置工事：500万円 監視カメラ設置工事：400万円 その他工事：500万円

合計：8200万円

## 《メリット・デメリット》

### メリット

- ・若干の改修が必要となるが、1年生～9年生まで一つの校舎に入ることができる。
- ・校舎、体育館ともにH18築で新しく、きれいな校舎等で学ぶことができる。
- ・校庭が広く、遊具設置後も十分なスペースがあり、体育祭・運動会等の校庭を使用する行事も余裕をもって行うことができる。
- ・児童推移により令和8年度から複式学級対象となる学年が出てくる。ただし、学校統合の特例により、統合後5年間は教職員の加配が認められるため、複式学級を回避することができる。(小学校のみ統合, 小・中統合 共通)
- ・中一ギャップの緩和・解消
- ・子どもたちの実態や理解の程度, 9年間の指導内容の系統性を考えて, 指導する時期(学年)や指導時数を柔軟に考えることができる。
- ・子どもたちの発達段階に応じて, 効果的な教育課程を組むことができる。
- ・教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序や指導内容を考えたり, 児童生徒にとって理解が難しく, つまづきやすい内容は定められた学年以外でも繰り返し指導したり, 系統的・継続的な学習によって教育効果が高まることが期待される。
- ・1年生から9年生までの生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって, 上級生から下級生に対する思いやりの心, 上級生・下級生の規範意識, 下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待され, 異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成の効果が期待される。

### デメリット

- ・児童・生徒数の減少は回避することはできず, 現在予測可能な令和9年度で142人(小学生70人, 中学生72人)となり, 移住・定住, Uターン等がない限り, その後もさらに減少することが予測される。
- ・校庭は広く, 十分な広さはあるが, 校舎西側にあり, 職員室から校庭の様子を見ることができない。  
**対応策⇒** 監視カメラ(数台)を設置し, 子どもたちの様子を見ることができるようにする。
- ・児童館, 公民館等の施設が離れており, 児童館・学童保育を実施する施設までの移動方法の検討が必要となる。(担当課と協議・調整が必要)
- ・小学校卒業の達成感がない。  
**対応策⇒** 1/2成人式や立志式により, 発達段階に応じて子どもたちの意識付けを図る。
- ・人間関係が固定化しやすい。(1つの小学校から全員同じ中学校に上がる場合も同様)